

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

文学作品を学ぶ意味

6、7面

PFAS汚染への日本科学者会議のとりくみ

3面

平和と生活を壊す「日米同盟」(上)

10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp

学費値上げ阻止へ 立ち上がる学生たち



▶学費値上げに反対する学生たちの発言を聞く
集会参加者(2月13日、衆議院第二議員会館)

学費値上げを阻止するため、全国の学生が立ち上がっています。2月13日には、全国116の大学などの高等教育機関の学生が賛同して、学費値上げを阻止して無償化に踏み出そうという集会が国会内で開かれました。1面では集会の様子を伝え、2面では署名活動などにとりくむ学生の声を紹介します。

(塩田悠玄記者)

会場は満員、250人 以上が参加

2月13日の国会内の集会は、東京大学、大阪大学、広島大学、熊本大学、中央大学、武蔵野美術大学の六つの学生団体を中心として開催し、その他多くの大学の学生も結果しました。会場は満員となり、オンラインを含めて250人以上が参加しました。

次々に学生が実態を報告

集会では学生たちが次々と登壇し、高学費がいかに学生たちを苦しめているか、なぜ学費値上げを阻止しなければならないのかなどについて発言しました。

集会では、116の大学などが賛同(2月25日時点では120が賛同)した国への要請書が目指すものについて、東京大学大学院の佐藤雄哉さんが発言しました。佐藤さんは、「要請書が目指すのは、①2019年ごろから相次いでいる学費値上げを止めること②大卒などの学費をまず10万円値下げすること③給付型奨学金を拡充することこれら三点を可能にするために国が予算をつけること」と報告。学生団体自身で必要な予算を試算し、国に緊急の予算措置を取るよう

学べる環境を整えるためには、給付型奨学金の拡充や返済不要の支援策を充実させる必要がある」と発言しました。中央大学法学部の学生(2年)は、大学側が突如、学費値上げの計画を発表したこと、計画に対するアンケートを中央大生に向けて行ったことを報告。アンケート結果では、回答した9割の学生が学費値上げについて正確な情報を把握していません。生活実態に関するアンケートも行い、「経済的理由から病院

もはや大学生活と呼べるか分からない

集会で熊本大学の学生は、「大前提として、現在の国立大学で徴収されている年間53万円の授業料は決して安くはない」と発言しました。学費のためにアルバイトに追われ、勉強時間が確保できず給付型支援の成績基準から外れてしま

い、さらにアルバイトの時間を増やすという悪循環に陥った友人のエピソードを紹介。「苦しんでいる学生がほったらかしにされ、学費が全国規模でさらに上がれば、大学進学そのものがあきらめる人も増える」と指摘。「すべての人がどんな経済状況でも、等しく高等教育を受けられるような政策を強



▲学生(左)から省庁職員に要請書が手渡された(2月13日、衆議院第二議員会館)

改善すべき点が多く残っている」と発言しました。無償化は理想論ではない、理想論ではない」と述べ、軍事費の予算は増えるのに、無償化に向けた教育予算がつかないことを批判しました。

お茶の水女子大学の大学院博士課程2年の唐井梓さんは、「留学生であったり、持病を持っていたり、主党の各党国会議員も参加。スピーチを行いました。日本共産党の田村智子委員長は、集会で「文部科学省は、修学支援新制度や学費免除で支援していると言いが、その矛盾は(学生)みなさんのお話ですべて軽減できた人のみが注力されて論破されている」と力をから大きな拍手がありました。